

逗子開成中学校高等学校 創立110周年記念式典

生徒代表挨拶

本日、本校は、創立110周年を迎えました。私達は、この節目の年に1生徒としていただけるということ、又、このような盛大な式典に、多くのご来賓の方々と共に参加できますことを誠にうれしく感じております。

一一〇年というこの長い歳月の重みは、私たちの想像の遠く及ばないところです。その間、先輩方には、喜びや悲しみ、そして数々の栄光、時には挫折。一言では語り尽くせないたくさんのドラマがあったと思います。これらを思うと、今更ながら、この逗子開成に身を置き、学んでいることに幸せと責任の重さを感じます。

私は、逗子開成の何よりもの長所は、生徒主体の精神と自由な校風であると思っています。その現れとして体育祭や開成祭では、我々生徒自身による実行委員会を中心に活動し、企画・運営を自分たちの手で行っています。これらは良き伝統でもあり、これからも私達が受け継いで行かなければならないものです。しかし、このように日頃我々生徒が、自由に、それこそ「生徒主体」で活動できているのは、先生方や先輩方、ならびに地域の皆様のお力添え、そして逗子開成の根幹にある、自主自立の理念によるものだということを忘れてはいけません。

最近、考えていることがあります。私たちは伝統に甘んじているのではないかと。確かに一一〇周年という歴史の重みは素晴らしいものだと思います。そこには何か絶対にかわらない芯のようなものがあるはずです。しかし、全てのことを、検証することなく、伝統を理由にして現状のままで次の代へと受け継がせて良いのでしょうか。私たちは今、一一〇周年を迎えているからこそ、これからの逗子開成を左右する立場にいると言っても過言ではありません。もし変革すべきことがあれば、私たち生徒の力で変革していかなければなりません。視野を広げてみ

れば、現在、日本は少子高齢化時代を迎え、また長期にわたる不況の中、大震災を体験し、厳しい時代を迎えています。特にこの急速に進展する少子高齢化は、現在の日本を待ち受ける、避けて通ることのできない問題です。ですが、今、私達はこれらの困難に直面しているからこそ、劇的な体験ができる時代を生きているのかもしれませんが。言い換えれば、我々が今抱える様々な困難を超え、日本の持つ力強さを示す時代、様々なやりがいと可能性に満ちた未来の海へ、勇気をもって私達の船を出港させるべき時代を生きているのかもしれませんが。そして、その可能性を現実にする力は次世代を担う私達の中にあるのではないのでしょうか。今の私達には、これからの逗子開成だけでなく、世界をも動かして行く、力と責任が課せられているのです。最後に、私達が将来、多くの人と出会い、成長し続け、「勇気ある知識人」として、未来の日本が船出をする原動力となっていくことを、今ここに誓い、生徒代表の詞とさせていただきます。

平成25年4月18日 生徒代表 柏木 大智

2013年4月18日に逗子開成中学校高等学校体育館で举行された『創立110周年記念式典』の締めくくりとして、生徒代表挨拶が平成25年度生徒会長・高校2年柏木大智君が上記のようなスピーチを行いました。

これから未来の逗子開成の歴史を作るのは生徒自身であり、本日がその出発点であると位置づけられたこの記念式典にふさわしいスピーチであり誓いの宣言でありました。